

2020年12月期 第3四半期 決算説明会 主な質疑応答の内容

<2020年11月12日に開催した決算説明会における質疑応答の内容を要約しています>

2020年12月期第3四半期の決算概要 全体

Q:7-9月の粗利率が上昇した理由は何か。

A:ポンプ事業、コンプレッサ・タービン(CT)事業、冷熱事業で収益性改善施策の効果が徐々に出始めたこと、利益率の高い精密・電子事業の構成比が上昇したことによる。

Q:10-12月も前年同期比で上昇する見込みか。

A:見込んでいない。前期の10-12月はCT事業のS&S売上が大幅に増加した影響で粗利率が上昇した。今期はS&Sの売上時期が比較的平準化しているため、昨年のように10-12月に大きく増加するとはみていない。

2020年12月期第3四半期の決算概要 風水力

Q:説明会資料の7ページにクライオポンプの売上が増加したとあるが、どれくらいか。期初から増加していたのか。それとも7-9月で増加したのか。

A:第3四半期が終わった時点で数十億円。期初から増加傾向。

Q:LNG市場の設備投資は、この先2、3年の間も拡大するか。

A:来期も含め、しばらくは設備投資が活発な状況が続くとみている。これに備え、米国にクライオポンプのテストスタンドを建設中。

Q:LNG市場の設備投資拡大の要因は従前から話のあるLNGの需要増か。足元で何か変化はあるか。

A:そのとおり。急な変化はない。

2020年12月期第3四半期の決算概要 精密・電子

Q:7-9月に受注が減少した理由。

A:案件毎のタイミングにより一時的に減少した。7-9月の状況は大きな流れではない。

Q:説明会資料の9ページに「半導体市場の設備投資は一部で延期」とある。7-9月の半導体製造装置市場はネガティブに見えていたが、第2四半期から大きな変化はあったか。

A:大きな変化はない。延期されていたプロジェクトが実施されたり、新たに延期されるプロジェクトが出たりと、入れ替わりがあった程度。

Q:米中貿易摩擦の影響により足元の受注状況に変化は起きているか。

A:受注・売上共に幾らかの影響を受けている。

2020年12月期の見通し 風水力

Q:ポンプ事業で営業利益を5億円上方修正したが、売上は変えていない。第3四半期までの業績を見ると、標準ポンプは減少し、カスタムポンプが増加しているのでミックスは悪化していると思うが、増益の要因は何か。

A:カスタムポンプ事業での生産性の改善と利益率の高い中国子会社の増収により収益性が改善していることから上方修正を行った。

Q:CT事業は売上高の今期見通しを60億円上方修正したが、営業利益は8億円の上方修正に留めている。どのような前提か。

A:第3四半期終了時点でCT事業は減収増益の状況だが、製品の売上は伸びているため売上高を上方修正した。一方でS&Sの売上減少による収益性の悪化が見込まれるため、営業利益は8億円の上方修正に留めた。

Q:CT事業は7-9月の受注高も前年同期を下回っている。この状況が続いた場合、来期は減益になる可能性が高いか。

A:来期の売上に悪影響が出るとみている。

Q:標準ポンプ事業、カスタムポンプ事業それぞれの足元の状況と来期の見通しについて教えてほしい。

A:標準ポンプ事業は国内・海外共に受注が徐々に回復している。中国に続き、欧州などでも伸び始めており、最も回復が遅れている国内でも徐々に回復の兆しがみられる。現時点では来期はかなり回復が進むと見ている。

カスタムポンプ事業は足元で受注が芳しくない。地域別では中国が伸びているが、それ以外はかなり厳しい。

Q:来期、CT事業は売上高が減少し、標準ポンプ事業は回復し増収となる見込み。風水力事業全体で見た場合の方向感はどうか。

A:現時点では、売上高はともかく利益は回復する見込み。

2020年12月期の見通し 精密・電子事業

Q:CMPの7-9月の受注高は92億円と低調。受注計画に変更はなく、10-12月は300億円以上の見込みだがリスクはあるか。半導体関連の設備投資は業界全体でトーンダウンしているように見えるが、第4四半期から来年に向けてどのような見方をしているか。

A:半導体需要は底堅く、来期も今期を上回ると現時点では予想している中で、10-12月の受注見通しもかなり強い。足元でも、引き合いは増えてきている。

以上